

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	経済学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.3 教育方法
小項目	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。
要素	教育目標の達成に向けた授業形態（講義・演習・実験等）の採用 履修科目登録の上限設定、学習指導の充実 学生の主体的参加を促す授業方法 研究指導計画に基づく研究指導・学位論文作成指導（院） 実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導（専院）
小項目	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。
要素	シラバスの作成と内容の充実 授業内容・方法とシラバスとの整合性
小項目	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。
要素	厳格な成績評価（評価方法・評価基準の明示） 単位制度の趣旨に基づく単位認定の適切性 既修得単位認定の適切性
小項目	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。
要素	授業の内容および方法の改善を図るための組織的研修・研究の実施

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 少人数教育を推進するために、研究演習の1ゼミ当たりの人数を現行水準よりも引き下げる。また、大人数講義を複数クラスに分け、1クラスの履修者数を教室定員以内に抑える。	→研究演習の定員数。大人数講義科目のクラス数と履修者数。	B	A			
2. 学生の研究発表（例、エコノフェスタ）を定期的で開催し、その成果を社会に公表する。	→学生主体の研究発表会の開催数とその成果報告数。	A	B			
3. 大学院生や研究員をTA（Teaching Assistant：ティーチングアシスタント）、そして学部3・4年生をLA（Learning Assistant：ラーニングアシスタント）とするチューター制度やメンター制度を確立させ、5年後にはTAを10名、LAを20名とした組織にする。	→チューターやメンターを担当する大学院生・研究員および学部上級生の数。および、1人あたりのチューターやメンターが担当する学生数。	D	D			
4. 初年次教育部会を設置し、FD（Faculty Development：ファカルティ開発）の一環として、初年次導入教育におけるカリキュラム、授業運営、教育指導のあり方などを点検・評価し、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→改善による教育への効果の初年次教育部会での評価・点検とその公表。および、1年生対象の基礎学力検査の実施とその結果公表。	C	B			
5. FD委員会主催の授業改善のための研修会を継続し、授業評価アンケート、教育成果の測定方法、および授業改善方法の適切性などについて点検・評価を行い、問題点を改善する。そのことで、KG経済学士力の水準を引き上げる。	→学部FD活動による教育改善への効果の評価・点検とその公表。および、学部上級生（3・4年）の経済学専門能力検査の実施とその結果公表。	C	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.3.1	6.3.1 教育方法および学習指導は適切か。 (説明) 教育目標は、①経済学的な考え方の修得②外国語教育の重視③少人数ゼミ教育④達成度に基づく教育支援⑤チャペルアワーの重視⑥正課外教育の拡大であり、これらの視点に基づく学習指導を行っている。少人数ゼミ教育については、研究演習入門対象学生数721名に対し担当者数34名とし、平均約22名程度である。また定員の下限を20名、担当教員が望む場合でも上限を35名とした。正課外教育では毎年開催のインターゼミナール大会(11月)を開催し、研究演習I、16組の研究発表および15組のディベート(研究演習II 4年生3組含む)のほか、1年生によるディベート26組を開催した。
小項目6.3.2	6.3.2 シラバスに基づいて授業が展開されているか。 (説明) 各授業ごとの概要、評価方法、授業方法などを記したシラバスを学生に提示しており、学生によるアンケートに調査によると、シラバスに基づいた授業が概ね行われている。
★小項目6.3.3	6.3.3 成績評価と単位認定は適切に行われているか。 (説明) シラバスや授業などを通じて成績の評価方法・基準は学生に十分認知されており、単位制度の趣旨に基づく単位認定や既修得単位認定に関しても、授業科目履修心得に掲載。
小項目6.3.4	6.3.4 教育成果について定期的な検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない (説明) 教育効果の検証は執行部で絶えず行っており、新カリキュラムの導入へ向けて、基礎教育部会、専門教育部会を立ち上げ、検討をしている。新カリキュラムでは教育目標④達成度に基づく教育支援を可能にすべく、段階的に系統立てたカリキュラムの配置を検討している。学生の学習成果を測定するための評価指標の開発のため、「学生カルテ」作成の検討を開始した。
その他	

《評価指標データ》

- 履修者数規模別の授業科目数 (少人数・中人数・大人数)
- 少人数授業の授業形態の調査
- 規模別講義室・演習室使用状況
- マルチメディア教室の稼働率
- 遠隔授業を活用した授業の比率
- 各年次セメスターごとの履修単位数制限の状況【基本的な指標データ】
- 履修者別開講科目数・1科目当たりの履修者数
- 学生の授業評価におけるシラバスの有効性に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 成績評価の分布が適正な科目 (平均点が70-75点) の比率
- GPA値 (全学、学部別、男女別など)
- 定期試験の問題の適切性を検討する会議・委員会の有無と開催頻度
- オープン授業 (授業公開) の全授業における割合
- 学生の授業評価の実施率 (全学、学部別)
- 学生の授業評価における当該授業への満足度に関する質問への肯定的な回答比率 (大学、学部別、授業形態別)
- 在学生のうち、授業をまじめに評価したと思う学生の比率
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率
- 大学院生の論文件数 (査読制の雑誌と学内紀要等に分ける)
- 日本学術振興会特別研究員応募者の有資格者に占める割合
- 一括申請による教職免許状取得件数および取得者実数【基本的な指標データ】
- 在学生のうち、学生による授業評価アンケートの実施が授業を変えるのに役立っていると思う学生の比率

★ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	基礎演習論文、卒業論文に向けての指導教員による基礎演習、研究演習I各ゼミにおいての継続的な指導。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸ばさせるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	正課外教育の一環として、インゼミ大会の内容を再検討する。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価 (2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.3.1	TAとチューター制度についての検討。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	1、2年生対象の基礎学力検査の検討。
その他	

《次年度に向けた方策(2)》改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.3.1	学部3、4年生をL.A.とするチューター・メンター制度は大学全体の方針が出たうえで再検討する。
小項目6.3.2	
★小項目6.3.3	
小項目6.3.4	基礎学力調査(数学)のデモ実施を行い、検討する。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

- 進捗評価でB→A, C→B,あるいはA→Bのように、評価が昨年と変化した点については、「効果が上がっている」または「改善すべき」事項として、点検の上記述することが望まれます。
- 「現状の説明」6.3.4記載の「学生カルテ」は、次項の中項目6.4に関連して、注目される試みです。その具体的な内容が簡潔に記述されていればよりわかりやすいものとなります。

【学内委員】

- 教育改善に積極的に取り組まれていることが窺われます。
- 1研究演習あたりの人数制限を通じた少人数教育は具体的な数字も挙げられており、高く評価されます。しかし、研究演習以外の演習や大教室の履修者の教室定員内への人数制限については具体的な数値が示されていないので、より詳細な説明が期待されます(上記小項目6.3.1)。学生の研究発表という面では、毎年開催のインターゼミナール大会(11月)は高く評価されます。ただ、2011年度からAからB評価に下がった研究発表(例. エコノフェスタ)の定期的開催との関係について、より詳細な説明が期待されます(小項目6.3.2)。また、学部3・4年生をチューターとするLAは別としても、大学院生や研究員をTAとするチューター制度の確立について、2010年度に引き続いて2011年度もD評価であり、その原因の解明が期待されます(上記小項目6.3.3)。
- 各種取り組みを実施され、教育方法について努力されています。なお、大学基準協会の留意事項を参照にした記述を追加されることでより現状が分かり、また認証評価にもつながると思います。

- 昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・具体的な目標とその取り組みが評価できます。また、改善すべき点も把握できているので、具体的な改善の方策に取組まれることでより充実した教育活動が行われ、KG経済学士力が高いレベルで保証されることが期待されます。

【大学基準協会の、評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.3.1

基盤評価：「当該学部・研究科の教育目標を達成するために必要となる授業の形態を明らかにしていること」「【学士】単位の実質化を図るため、1年間の履修科目登録の上限を50単位未満に設定していること。これに相当しない場合、単位の実質化を図る相応の措置(厳格な成績評価など)が併せてとられていること」「【修士・博士】研究指導計画に基づく研究指導、学位論文作成指導を行っていること」

○小項目6.3.2&6.3.3

基盤評価：「授業の目的、到達目標、授業内容・方法、1年間の授業計画、成績評価方法・基準等を明らかにしたシラバスを、統一した書式を用いて作成し、かつ、学生があらかじめこれを知ることができる状態にしていること」「授業科目の内容、形態等を考慮し、単位制度の趣旨に沿って単位を設定していること」「既修得単位の認定を、大学設置基準等に定められた基準に基づいて、適切な学内基準を設けて実施していること」

○小項目6.3.4

基盤評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした、組織的な研修・研究の機会を設けていること」
達成度評価：「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる」

○小項目6.3.1~6.3.4

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得を促進する教育方法を採用している。」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

- ・方針と、授業形態等の教育方法の実態との整合性
- ・学習指導の充実等、学生の学習成果の修得を促進する取り組み
- ・シラバスを通じて示した授業計画、成績評価方法・基準等の適切な履行

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ なし